



## *Jmail from the UK*

*Junko Fuse*

4月初旬のある日、職場で東日本大震災の被災地に送る義援金を募るためのチャリティーイベントを開催した。テーマは「日本」。短い準備期間で行えることをスタッフが企画、活動の中心をここで学ぶ学生が行った。バザー、日本食の即席販売、略式の茶会(茶道)、ジュエリーワークショップ、折り紙ワークショップ、書道ワークショップ、これらは代金あるいは参加費をいただき、それをそのまま義援金にするというものである。また、代金等はいただかないが、居合の達人による実演、プロのピアニストとしても活躍している学生によるピアノ演奏も行った。後者はこのために友人(日本人)がドイツから駆けつけ、連弾なども行われた。受付には募金箱を設置し、そこに義援金を納められるようにもしておいた。

来訪者は250人を超え、当日のみの収益つまり義援金は1,920ポンド強(日本円で約26万円)となった。その後、イベントには参加できなかったが募金をしたという人たちから小切手の送付や銀行振り込みなどがあり、最終的には2,200ポンドを超える義援金となった(日本円で約30万円)。これらはすべて日本赤十字社に送られた。少しでも役に立てていただけたらと関係したすべての人たちが願っている。

同時期スーパーに買い物に行ったとき、CDコーナーに行ってみた。今のヒットチャートを知るために時々立ち寄ることにしているのだが、ある棚にどうみても日の丸とおぼしきジャケットのCDがあるので手に取ってみる。タイトルは「Songs for JAPAN」。裏を返してどんな曲が収録されているのか確かめる。2枚組だが、1枚目の1曲目からジョン・レノンの「イマジン」である。新鋭アーティストから大物ミュージシャンまでジャンルを問わずいろいろな曲が収録されている。中には既に亡きフレディ・マーキュリーがクイーンというグループのボーカルとして歌っている「手を取り合って」(部分的に日本語で歌われている)もある。ケースにはこのCDの収益はすべて日本赤十字社に寄付されるという文字と、赤十字社のロゴも入っている。言うまでもなく購入したのだが、有難いことに私が手に取った後その棚は空となった。

調べてみると、このアルバムはユニバーサル、EMI、ソニーミュージック、ワーナーミュージックの4大レコード会社がレーベルの枠を超えて作られたもので、震災から2週間後に世界同時リリース配信、その後ソニーよりCDが発売となったようである。日本では5月にオリコン初登場で第3位ということで、実際に購入したり聞いたりされた方も多いかと思う。

実はここからが本題である。

「まさかの時の友こそ真の友」(A friend in need is a friend indeed)ということわざがある。Friendship という言葉を愛読書(?)の A.ビアス(Ambrose Bierce)著『悪魔の辞典』(The Devil's Dictionary)で引くと

Friendship, n. A ship big enough to carry two in fair weather, but only one in foul.  
という、痛烈な皮肉をこめた定義が載っている。

今回のチャリティーイベントを通じて思ったことがある。普段疎遠になっていてもこの日のためにわざわざ遠くから足を運んでくれたり連絡を取ってくれた人もいれば、自称日本好きを語り、普段いか

に自分が日本人と親しくしているかを吹聴しながら、このようなとき何も言ってこない人もいる。これは自分のこれまでの行動も含めて大きく考えさせられる事実だった。

先に取り上げた CD にしても、対応が早い。日本びいきのある英国人タレントはすぐに数万ポンドを寄付したと聞く。言動が粗野で好きになれなかったある英国のミュージシャンが、自ら動いて他のアーティスト達（しかも一流どころ）とチャリティーコンサートを開いたというニュースが写真入りで報道され、彼を見る目が少し変わった。

今年の初めに、ある人気テレビドラマが終了となったのだが、その中である女性が言ったセリフが忘れられない。

What matters is NOT what you think or what you say, but what you DO.

確かこのような文だったと思う。

頭を殴られたような衝撃だった。自らの気の弱さから実行できなかったことの数々。後悔の念。それをこのたった一行の、数秒で終わるセリフが鋭く突いてきた。

そう、思ったのならそれをしなければいけない。それは私も考えていたんだけどね、などというのは言い訳だ。大事なときに何もしなかったというのは何も考えていなかったのと同じだ。たいそうなことは言うが言うばかりで実行しないというのもそうだろう。そういう人の信頼は自然となくなっていくものだ。スポーツメーカーNIKEのキャッチフレーズにJUST DO IT!というのがあるが、コンセプトは同じことではなかろうか。そういえばActions speak louder than words.ということわざもある。手元にあることわざ辞典（『悪魔の辞典』ではない）をしてみる。共感するものに印をつけながら読んでから十年近くたっているのだが、これにはついていない。読んだ当時はこれがどういうことかわからなかったということをはっきり証明している。

「大事なことは実行すること」。この言葉をいつも心に生きていこう。逃げて悔むなら、挑んで悔むんだ。

(英国/ロンドン グリニッジ在住)

## 協力校紹介 第48回

〈宮城栗原校〉 宮城県栗原市

代表 三枝 みさ枝

~A Stride For The Future~

「一歩を踏み出そう」

「今年はどうしたらいいんだろう・・・。」3月11日の地震から10日ほど経ったその日、待ちに待った電気が点いた。不安で緊張しきっていた心が少し楽になったと同時にいろいろな悩みも浮き上がってきた。

地震が起きたとき、第3回北宮城英語朗読コンテストの開催まであと4ヶ月を切っていた。ちらしとポスターのデザインもうすでに出来上がっていて翌日にも印刷に出す手はずになっていた。ここ宮城県栗原市は震度7。近隣の市や仙台市も6強。そして津波による甚大な犠牲者の数。「今年の開催は無理か・・・。」との思いが脳裏をよぎっていた。

宮城県北地区で個人で英語教室を開いている私ともう2人の英語教師の3人で、自分たちの住む地域での英語活動を活発化させようと2009年より、「北宮城英語朗読コンテスト(Kita-Miyagi English Dramatic Reading Contest - MERC)」なる活動を始めた。大崎市、栗原市そして登米市の3つの市の持ち回りで今年は7月3日(日)に第3回コンテストを控えていた。

このコンテストの概要を簡単に説明すると、このコンテストでは発表者は私たち実行委員会が用意した英文課題を手を持ち、ステージ上で思い思いのスタイルで朗読をする。参加対象年齢は幼稚園年長児から成人（年齢制限なし）で、年齢別に5つの部門に分かれている。それぞれの年齢別に個人発表とグループ発表（成人のみ2人。他は3人）があり、参加資格もネイティブの方以外誰でも参加OKという、文字通り誰でも参加できるコンテストになっている。審査は英語力と表現力から審査され、その比率は5：5になっている。各部門、個人・グループ別に上位2名（グループ）が表彰される。

私たちの心配をよそに、第1回コンテストでは55名が、第2回コンテストでは70名のエントリーを宮城県内外からいただいた。第2回目ではウェブサイト上で見つけて参加した、という北海道函館からの女子高生が素晴らしい朗読を披露し、高校生個人の部で優勝、会場を大いに沸かせた。「果たしてこんな田舎で英語朗読コンテストに出る人なんているんだろうか・・・」という私たちの当初の不安は「大丈夫。ここにも英語を学びたいという意思のある人はたくさんいるし、仙台や県外からだって自分の英語力を試してみたい人はちゃんと足を運んで来てくれる。」少しずつそういう確信に変わってきている。今では私の周囲からも「来年もコンテスト出るからね!」と言っていたいたり、応援の電話やメールもいただいている。心強い限りである。

話しは震災後に戻る。生活や仕事の建て直しにかかり切りになって一ヶ月半が過ぎたとき、私たちは結論を出した。

「やろう。歩みを止めないで、一步を踏み出そう。」今年のテーマは「A Stride For The Future -- 力強い一步を踏み出そう」—— 活動を中止することは災害に負けてしまうこと。コンテストを楽しみに待っていてくれる人がいる。この歩みを止めることはできないと、7月3日（日）から11月6日（日）に延期して実施することを決めた。現在はスタッフのみなさんの協力の御陰で無事にポスター・ちらしもできあがり、新しいホームページもできあがり7月1日からの参加申し込み開始に備えている段階である。

また MERC では、年一回のコンテストのほかに、通年を通して何か英語学習者や教師に向けた発信ができないかと考え、昨年11月から会報誌「MERClub」の発行も開始した。会報誌の内容は宮城県北地域において国際的に事業を展開している企業の紹介・県北地域の小学校の英語の授業の紹介・英語学習に役立つインフォメーション・英語の4コマ漫画、その他もろもろの英語に関する情報を載せている。もちろんこれらの取材・編集はすべて私たちスタッフが仕事以外の時間を使って行なうので私たちの生活は以前と比べて格段に忙しくなった。だがしかし、誰からも大変だからやめよう・・・の声は上がらない。それは基本的にこの会報誌作りが楽しいからであろう。地元発信の「英語活動」を視点においた会報誌なんて我々以外誰も（少なくとも宮城県内では？）作っていない。要するに我々のやりたい放題のことがやれるのである。（少し言いすぎ？）

ただ私たちの活動で一番の課題はなんといっても資金源の確保である。現在は会員の募集、それから地元の企業や英語教室等からの協賛金で運営しているが、やはり長い間活動していくためには安定した収入源の確保が欠かせないので、我々の課題はまだまだ満載といったところである。

第3回北宮城英語朗読コンテストは今年11月6日（日）、会場は宮城県登米（とめ）市豊里（とよさと）公民館（豊里総合支所内）中ホールにて開催される。時間に都合がつく方がいらっしゃれば是非足を運んで見に来ていただきたいと思う。もちろん前述のようにネイティブ以外どなたでも（先生でも!）参加できるので、ステージ上で英語朗読にチャレンジしてみたいかだろうか。詳しい情報は MERC ホームページに掲載している。

最後に茅ヶ崎方式英語会さんにこのような我々の活動を紹介させていただける機会を与您にいただいたことに深く感謝申し上げたいと思います。コンテスト活動と共に茅ヶ崎英語方式のほうも広く宮城ひいては東北地方に広めることも私の使命と思い、頑張っていきたいと思っています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

北宮城英語朗読コンテスト <http://kitamiyagi-eigo.com>

お問い合わせ [contact@kitamiyagi-eigo.com](mailto:contact@kitamiyagi-eigo.com) FAX/TEL 0228-22-7969（三枝）

開講から一年半、つまずきスタート、順調、そして震災を経て

東日本大震災で被災された皆様にお見舞い申し上げます。

ワクワクと緊張でハイテンションが抑えきれずの開講から、早いもので、一年半が経ちました。地元の大型ショッピングモール内のカルチャースクールでの船出、体験授業の受講生たちの感想は初級の位置づけの C1 については「これが初級ですか?!」「難しい!!」などで、参加者のうち、入会の判断をしてくださったのが、半分… しかも、もともと開拓していた方を除けばお一人、という、好スタートとは言い難いものになりました。しかも、分かってはいましたが、カルチャースクールには授業料の半分以上を納めなければならず、人数が少なく、既に支払いを済ませている教材費を差し引くと、1つレッスンをする毎に 500 円の出費となりました。ビジネス的には、全く満足度の低い状態でしたが、誰かに「やめたら…?」と言われてもやめられない、楽しさがありました。15年以上、幼稚園児から、高校生までを教えてきた私ですが、自費で通う大人ならではの、やる気がみなぎる生徒さんの眼差しに感動いたしました。子供や学生が伸びていく姿を見るのも良いものですが、自己投資をする方ならではの強い積極性は伸びる原動力と感じました。そんなわけで精神的には満足していたのですが、当然ながら利益を上げないわけにいかず、考えた結果、カルチャースクールの持つ華やかなイメージが、茅ヶ崎方式の魅力である「地味な真面目さに支えられる、確実に力をつけるメソッド」と合わないのだ、と結論を出し、移転を決意致しました。つくば市の施設である公共のホールの小さな会議室を借りての講義となりました。予約を間違いなくとる作業、予約が取れず、やむを得ず部屋を移動したり、その連絡も間違いなく行う、意外と雑用がありましたが、授業環境は良く、生徒さんの数も少しずつ増えて、順調と思っておりました。

そんな折の 3 月 11 日、巨大地震、つくば市周辺は震度 6 弱で、東北の方々の被災状況を考えれば、なんでもないレベルのはずですが、人生で初めて「死ぬかもしれない…」と一瞬ですが身の危険を感じました。しかし大きい揺れも、収まってみれば、私自身に関しては、家の食器が割れたり、少し家具が動いたり、くらいのもので、まだまだ呑気なものでした。ところが、つくば南校の拠点である施設が、大きな被災をしていました。崩れたわけではありませんが、安全検査で、「危険」と判定されたらしく、6 月いっぱいまで休館、その後も不明との連絡を受けました。つくば市は営利団体には公民館を貸してくれませんから、条件の合う会場を探すには時間がかかります。正直、困りました。ひとまず、会場を私の自宅に移すことにしました。幸か不幸か、現在、クラスの受講人数がそれぞれ 4 名以下ですので、連絡も楽にできましたし、自宅の一部屋で十分収容でき、ちょうど 7 日間の臨時休業の後、スムーズに再開することができました。

現在、仮の会場でのレッスン展開となっていて、不安な要素はもちろんあります、不測の事態がまた今後も起きるかもしれません。しかし、レッスンを続行できる環境が整っているなら、よしとしたいと思います。少しの場所さえあれば仕事ができるのが英語レッスンの強みです。やる気のみなげる眼差しに支えられながら、進化するつくば南校で私も進化していきます！



あとがき：大震災後、日本のための援助活動や義援金のニュースが世界各地より届きました。本当にありがたいことだと思います。また、今回は被害の大きかった地区の協力校の方に原稿を書いていたことができました。前向きに進まれるご様子に頭が下がる思いです。被災地の復興を願ってやみません。